



12月1日(日)、日進市民会館展示ホールで「にっしん助け合いリビングラボ」の4回目を行いました。この日の参加者は、市民や事務局・スタッフを含めて19人でした。

前半は、前回からこれまでの間に実践してきた「お試しプロジェクト」について、3つのグループから活動報告をしたあと質疑応答し、発表班以外の方は付箋に「評価」と「改善」のコメントを記入しました。

また後半は、「評価」・「改善」カードも参考にしながら、各グループでプロジェクトをふりかえり、今後に向けた活動のさらなるブラッシュアップをしたあと、全員で各プロジェクトについて意見交換しました。

にっしん助け合いリビングラボ ④ **トライアル発表会 & ふりかえり** NEWS LETTER ④

1 トライアル発表会

3つのグループから、「お試しプロジェクト」の活動を報告。各グループの発表、質疑応答の後、発表を聞いて感じた「ここイネ！わたしの共感ポイント（評価）」と「こうしたら？もっとよくなるかも！（改善）」をカードに書いて貼り出しました。

D 日進市おせっかいグループ「赤いバンダナ」

赤いバンダナ de ボランティア おせっかい いかがでしょう？

ちょっとした困りごとをちょっとしたボランティアで支え合うことで、地域、世代関係なくゆるいつながりをつくり、気軽にボランティアを始めるきっかけになることを目的としています。おせっかいな市民のシンボルとして赤いバンダナを身に



着け、ボランティアの意思表示をします。認知してもらうため、11月17日の市民まつりでバンダナ、ピブス、作成したポスターを身に付けて、総合案内や会場内で来場者におせっかい活動をしました。楽しく活動でき、緩やかな輪もできました。

今後は、仲間を増やしたい、他のイベントに参加したい、自分たちのユニフォームが欲しい、市民とただ雑談するだけの場も欲しいなと思いました。皆さんの活動の場にも呼んでくださると嬉しいです。

Q:コミュニケーションのきっかけは？

A: 困りごとについて声をかけられることが多かった。明らかに困ってるなという場合は、自分達から声掛けしました。

Q: 今後もボランティアとして活動？

A: 自分達にできることは自分達の場からやっていこうというのがもともとあったので。今後どうしていくかはまた考えたい。

B なかいま（仮称）

つながったから ひらこ つな軽宝

地域の困り事を近所づきあいの延長線上で解決していけたらという想いからスタート。平子台自治会の役員に、生活での困りごとについて尋ねるアンケートの実施を相談・提案し、事前に協力依頼の回覧をした上でアンケートをポスティングしました。

今後は、各組の役員さんまで提出された回答を集計・考察し、悩み事や困りごとに対してどうアプローチしたらいいか考えたい。地域でまとまって助け合うという価値観をどう共有できるかがこれからの課題。

継続していくためには、「アリガトウ」カードなどで感謝の気持ちを表したり、有償化も考えていかないといけないかなと思います。

また「ひらこボランティア」や民生委員、社協や生活支援コーディネーターなどにつなげて、よりよい方法で取り組んでいけたら。



Q: 自治会の協力を得るのはなかなか難しい。どう自治会にかけあったのか？

A: 役員のうち1人は良く知った人だったが、他は若い知らない方だった。今回アンケートをとることで動いたら、「ひらこっこ（乳幼児の集まり）」が新たに開かれたりと、ちょっとした刺激でみなさんが動かれることがあるんだと、勉強になりました。

A CONNECT

CONNECT

学生と地域がつながることで、地域活動の担い手を増やし、地域に若者を根付かせ、多世代が支え合える環境をつくることを目的とした「学生×地域コネクトプラン」を考えました。



11月6日には、自分たちの活動イメージをつかむことと、運営側の現状を知ることが目的として、「ささえあい藤塚学習ひろば」を訪問し、お話を聞きました。

12月22日には子ども食堂 Rin のおうちで、学生企画イベントを開催。英語かるた、リユース工作、BINGO、茶道、そば打ちなど、メンバーが得意なことを行う予定です。ただチラシを作成して名古屋外国語大学と愛知学院大学で参加者を募集しましたが、苦戦しています。

課題は、簡単に活動に申し込む方法がないか？他のイベントとの違いをどう出すか？参加者集めは、個人のつながりだけでなく組織としての繋がりができないか？

Q: 学生はどこにどう呼びかけた？

A: 所属するボランティアサークルのLINEグループで呼びかけた。愛知学院大は総合政策学部の先生にお願いしたりコラボレーションセンターに声をかけました。

2 グループワーク「KPT ふりかえり～さらなるブラッシュアップ」

「評価」・「改善」カードの意見を踏まえ、各グループで「Keep（手ごたえ・よかったこと・継続したいこと）」、「Problem（問題点・課題・改善したいこと）」、「Try（今後取り組みたいこと、挑戦）」を考えながら、活動のブラッシュアップをしたあと、全員で意見交換しました。

D 日進市おせっかいグループ「赤いバンダナ」

赤いバンダナ de ボランティア おせっかい いかがでしょう

Keep…すぐに行動に移せたこと、自分達も楽しみながらできたこと、メンバー同士でゆるいつながりができたこともよかった。

Problem…活動エリアをはっきりした方がよい。どんな活動をするか、どう伝えていくかイメージする必要がある。時間と経験、チームの熟成が必要。



Try…ユニフォームを作る、規約をつくる、仲間を増やす、アウトリーチを増やす、どう地域に入っていくかが課題。

・お店などで、こういう活動をしているので手を組みませんかというやり方もあるかも。資金源にもなるかも？



→これからも大きなイベントと地域と両方で活動しようと思う。道の駅でも活躍したい。

・やれることとやらないことを明確にしておく、おせっかいする側も参加しやすいのでは。

→やってみないとわからないところもあるので、自分達も成長し熟成していこうということでもいいんじゃないか。

・子どもが集まる場で、読み聞かせを宣伝するのぼりと横断幕でPRしている。目立つことは大事なと思う。

B なかいま（仮称）

ひらこ つな軽宝（つながったから）

Keep…自治会を巻き込んだのが良いと言ってもらった。

Problem…連絡を取り合う、情報を共有する方法が一番大事になると思う。そこを何とかしていきたい。

Try…社協や市にもご意見を頂いて進めていきたい。

・地域の活動が見えてきたことも手ごたえ。自治会の中で情報共有の手段が集会所のホワイトボードくらいしかない。アンケートの結果を、自治会だけでなく活動されている団体にも共有し、一緒に何ができるかも考えていきたい。社協も一緒にやっていきたい。

・自治会は役員交代がある。交代時に、次の役員を紹介してもらって話せる場をつくってもらいたい。

→役員 OB が活動メンバーに入ってもらえるといいのかも。

相談役とか顧問とかでつなぎ役になってもらえるといい。



A CONNECT

CONNECT

Keep…メンバーにいろんな得意があること、学生と連携できているのはいい。



Problem…学生に継続して参加してもらうこと、団体の信頼度を上げること、学生の交通手段。大学を卒業してもつながりがほしい。

Try…継続でなくても、ピンポイントで参加できるようなボランティアマッチングができないか。参加した学生に何かを持ち帰ってもらいたい。学生が企画して実現できるといい。

・おもしろかったことを周りに発信するといいんじゃないか。
→学生にとってのメリットを探していけばいいのでは。
→年越しそばとか、食をテーマに来てもらうのもいいのでは。
→ボランティアサークルの人に、なぜ来ないか聞いて解決策を考えたらどうか？



ひとことアンケートより 3 グループの活動を知ることができて大変良かった／様々な経歴や経験があると、意見交換することで新たなアプローチが見つかりました／いろんな「才能」「得意なこと」が集まると、こんなに可能性が広がるんだなとワクワクしました／全員で話ができる、意見することで、チーム力が高まる。良い時間と場でした ほか

お問い合わせ：

日進市 福祉部 地域福祉課 福祉政策係

TEL : 0561-73-1643 (ダイヤルイン)

FAX : 0561-72-4554

E-mail : chiikifukushi@city.nisshin.lg.jp